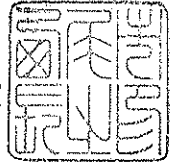




西土 第 54 号  
平成19年5月1日

国土交通省道路局長 様

愛知県西尾市長 中村 晃毅



道路整備の中期的な計画の作成に当たっての意見

今後の道路政策や道路の整備・管理について

● 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

○国際競争力の強化 ○地域の自立と競争力強化

愛知県は国際的な物づくりが数多い地域で、さらに西三河南部地域はその産業の土台を担っていますが、地域間道路ネットワークの不備が、国際競争力の低下や海外流出に向かい、地域に根付かない原因のひとつとなっています。

西尾市では平成18年度から企業誘致に力を入れ19年度からは企業誘致推進室を設置し、更なる推進を図る中で道路ネットワークの不備が企業誘致の大きなネックとなっており、またネットワーク化により輸送時間の大幅な短縮やCO<sub>2</sub>排出量の削減など自動車交通の効率化が図られ、地球温暖化対策に極めて有効な施策であります。

この地域では、南北の基幹道路となる都市計画道路安城一色線の早期整備、また23号岡崎バイパスの早期4車線化・国道247号4車線化・衣浦岡崎線4車線化、或いは新規事業として地域高規格道路である名浜道路の早期事業化など、どの路線をとってもネットワーク形成や、また中部国際空港・衣浦港などの拠点や交通結節点への広域的アクセスに欠かせない道路ばかりで、幡豆郡3町との合併を模索する中でも西三河南部地域の連携・交流基盤の確立につながり、地域の自立と発展に必要なかつ不可欠であります。

● 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

○道路施策の進め方・・・集中的な投資による短期の道路整備に重点を置く。

愛知万博で東海環状道路など北部地域の道路が短期集中的に投資がなされた。大きなイベントがなければ出来ないのではなく、効率の良い投資が必要であると考えます。

今後は日本のものづくりの中心である愛知県の、またそれを支える西三河南部地域に道路整備の重点を置き、集中的な投資による短期の整備を行えば効率は上がり、慢性的な渋滞による社会損失の抑制や長期工事による渋滞などの緩和にもなり、投資効果、事業効果も大幅にアップすると考えます。

● その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関するご意見

この地域は、名鉄三河線の廃線、定期バス路線の間引きや廃止など公共交通網の不毛地域であり、車が主な交通手段で、慢性的な渋滞を引き起こす要因にもなっており、道路特定財源の一般財源化を前提とした見直しについては、このような地方の道路事情に合わせて地方道路整備臨時交付金や防災対策としての電線類の地中化事業などの配分を大幅に増やし、道路ネットワーク形成に集中投資をして、地域経済の強化を図るべきと考えます。